

総合文化研究入門A(G3102)
2013年12月18日(水)4限 227教室

伝統芸能に見るジャワの文化伝承

～さまざまな文化の理解のために #10～



言語文化学部 (インドネシア語専攻)
青山 亨

この講義のねらい

- 歴史の諸段階を経て伝承されてきたジャワの伝統文化を芸能を通じて理解する。
 1. ジャワ固有の精霊信仰
 2. ヒンドゥー教の信仰の伝来
 3. イスラームの信仰の伝来

この講義の構成

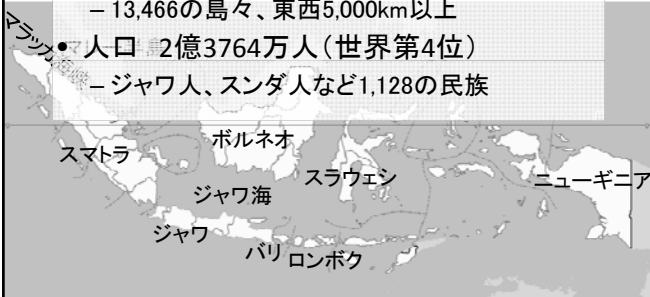
- 背景
 - インドネシアの文化的多様性
 - インドネシアへの宗教伝播の歴史
- インド文化の伝来
 - ヒンドゥー叙事詩「ラーマーヤナ」
- イスラームの伝来
 - 正統的な信仰
 - イスラームと精霊信仰
 - 芸能に見る「ラーマーヤナ」
- 総括

インドネシア語の読み方の基本

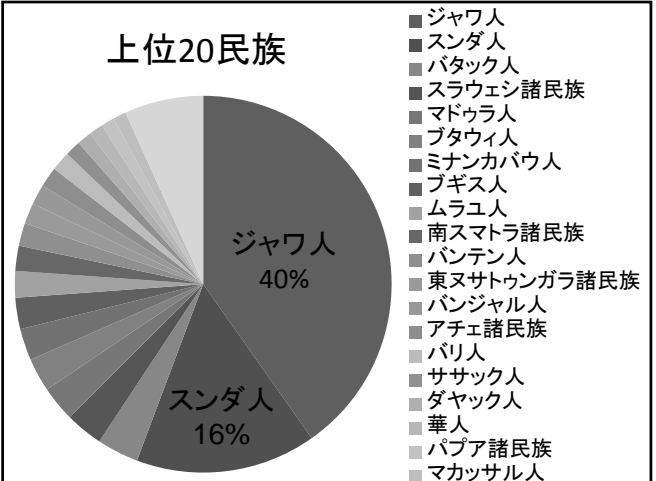
- ローマ字で表記
- 読み方は、おおよそローマ字のとおり
- 気をつけるべき点：
 - eはエの音と曖昧母音のウの2通りの音
 - cはチャ行の音
 - 母音に長短の区別なし
- 例: kecap ケチャブ、gamelan ガムラン、Garuda ガルダ

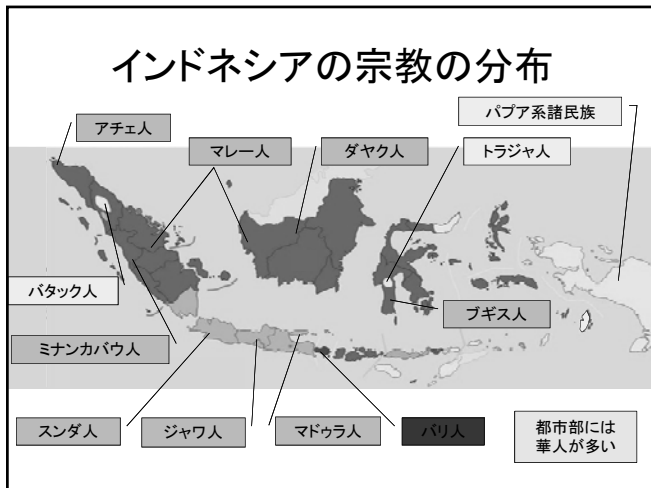
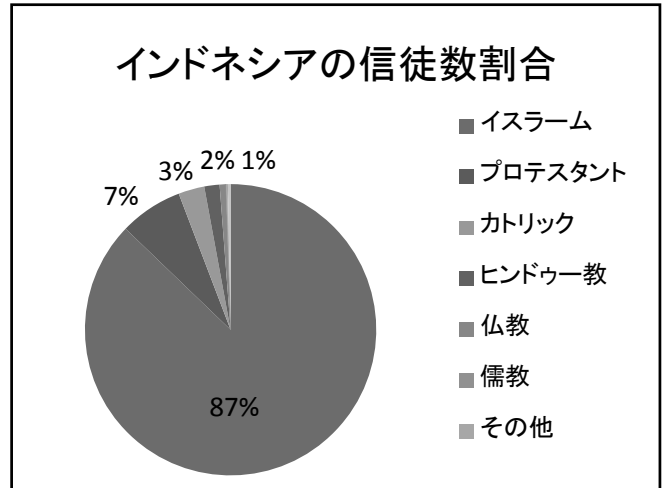
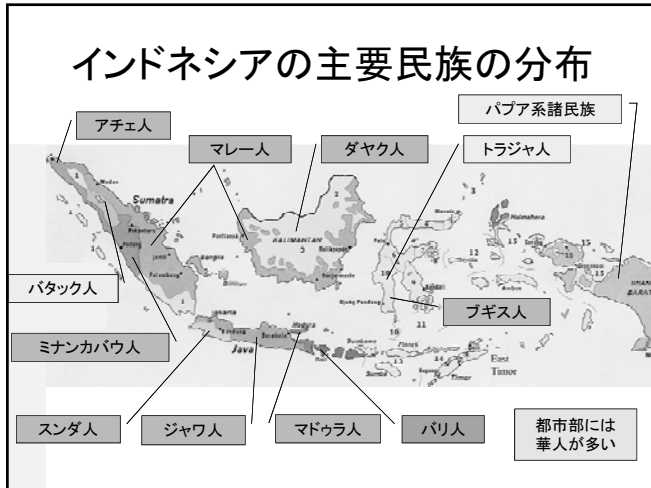
インドネシア概要

- インドネシア共和国(1945年8月17日独立)
- 面積 192万km²(日本の約5倍)、33州
 - 13,466の島々、東西5,000km以上
- 人口 2億3764万人(世界第4位)
 - ジャワ人、スンダ人など1,128の民族



上位20民族





宗教の伝播の歴史

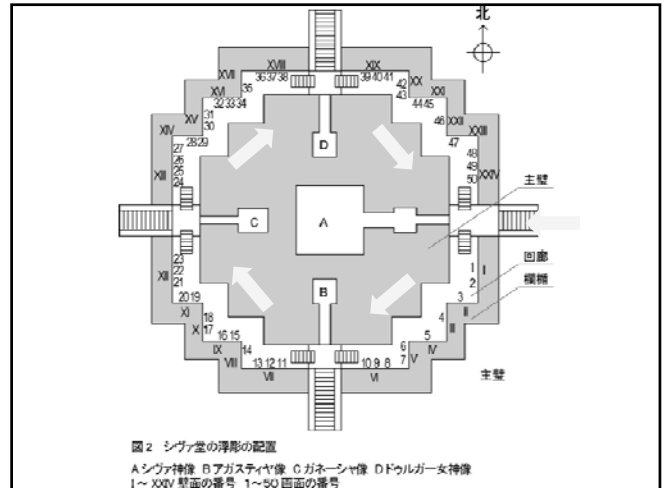
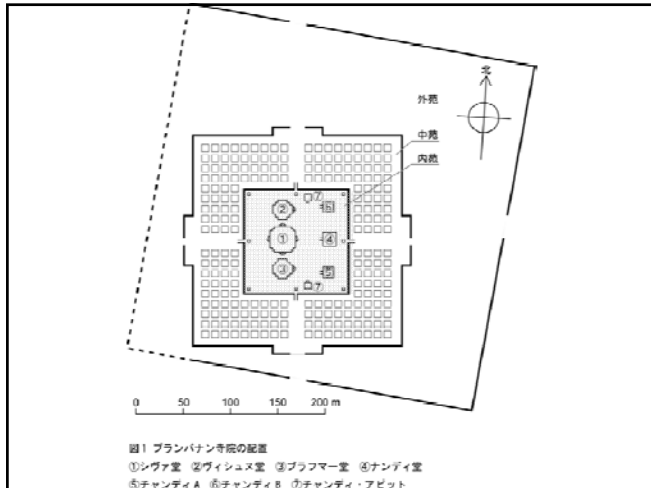
- 5世紀～15世紀: インド文明の影響
 - ボロブドゥール遺跡(大乘仏教)
 - プランバナン遺跡(ヒンドゥー教)
 - ジャワ島を中心に定着、バリ島へも
- 15・16世紀: イスラームの本格的な定着開始
 - 海上交易の拠点から伝播
 - 16世紀ジャワ島、マタラム王朝、スルタン
- 16世紀: キリスト教の到来
 - 香料諸島への関心>東部インドネシアに展開
 - 20世紀に内陸部の布教に一定の成功

ヒンドゥーの神々

- インド文化の伝来
 - 5世紀以降
 - ジャワ島を中心にヒンドゥー教、大乘仏教の伝来
- ヒンドゥーの神々
 - ブラフマー神(Brahma): 宇宙創造の神
 - ヴィシュヌ神(Visnu): 宇宙維持の神
 - シヴァ神(Siva): 宇宙破壊の神
 - そのほかにガネーシャなど多数

ラーマーヤナの浮き彫り

- プランバナン寺院(Prambanan)
 - 9世紀頃、ヒンドゥー系王国の建立
 - 中部ジャワ、ジョグジャカルタの東15km
 - シヴァ神祠堂の回廊にラーマーヤナの浮き彫り
- ラーマーヤナ(Ramayana)物語
 - ヒンドゥー教叙事詩の代表作
 - ヴィシュヌ神の転生ラーマ王子が悪鬼に誘拐されたシータ王女を救出する



イスラーム

- 六信：
 - 1) 神、2) 天使、3) 啓典、4) 預言者、5) 来世、6) 天命
- 五行：
 - 1) 信仰告白、2) 礼拝、3) 断食、4) 喜捨、5) 巡礼
- イスラーム暦(ヒジュラ暦)
 - 純太陽暦：西暦2013年=ヒジュラ暦1434/1435年
 - 断食月(第9月)。断食明けの朝に集団礼拝
- 一切を超越した唯一の絶対者、世界の創造主、終末の裁き主である神のみが祈りの対象

ジャワの宮廷儀礼 1

- ジョグジャカルタの王
 - スルタン(Sultan)：イスラーム地域社会の世俗的権力者
 - マタラム王朝の末裔
- ガルブグ(Garebeg)
 - ムハンマドの誕生日(第3月)
 - 断食月明け(第10月)
 - 犠牲祭(第12月)
- グヌンガン
 - ガルブグ祭礼のハイライト
 - 山型の食べ物のみこし>民衆に配布
 - 豊穡儀礼

ジャワの宮廷儀礼 2

- ラトウ・キドウル「南海の女王」
 - ラトウ(ratu)=女王
 - キドウル(kidul)=南
 - ジャワ島南海岸部を中心に広く信仰
 - 南海(インド洋)にあって、ジャワ全土の精霊たちを支配
- マタラム王朝との関係
 - 王朝の創建者セノパティと交流
 - マタラム王朝の子孫とも交流を継続

ブドヨ・クタワン

- スラカルタの王
 - ススフナン。マタラム王朝の末裔。
 - ブドヨ・クタワン(bedhoyo ketawang)
 - 宮廷の神聖舞踊、王の即位記念日
 - ガムラン伴奏
 - 九人の女性による集団舞踊
- ラトウ・キドウルの出現

芸能に見るラーマーヤナ

- ワヤン・クリ「人形影絵芝居」
 - ワヤン(wayang)「影」
 - クリ(kulit)「皮」
 - ダラン(dalang、人形使い)、ガムラン伴奏
- 物語
 - 主として、ラーマーヤナ、マハーバーラタに代表されるヒンドゥー叙事詩に題材を得た作品
 - ラーマ、シーター、シヴァ神などが登場

ワヤン・オラン

- 現在のワヤン・オランは中部ジャワで19世紀末に出現。
- ワヤン・クリに影響され、人形の振りで人間が舞台上で演じる。

スンドラタリ

- ワヤン・オランを近代的に改変。1960年代に創造。
- ラーマヤナを題材とするため、観光客向けに「ラマヤナ・バレー」と通称。
- プランバナンの野外劇場で、乾季の週末に4晩連続のプログラムが上演。

総括

- 固有の信仰と伝来した宗教
 - 精霊信仰: 基層の信仰
 - ヒンドゥー教: 多数の神々
 - イスラーム: 唯一神への信仰
- 重層的な文化の伝統
 - イスラーム信仰における唯一神
 - 精霊信仰におけるカミ
 - 文化としてのインドの神々
- 共存する「神」・「カミ」・「神々の物語」

【レスポンスシートに回答してください】

【設問】

ジャワの文化はどのような意味で「重層的な文化の伝統」をもつと言えるのか、ジャワの芸能や儀礼を例として説明してください。

【映像資料】

- Sendratari (15:00)
 - http://www.youtube.com/watch?feature=player_detailpage&v=3wr-2eJBxOo
- Bedoyo Ketawan (3:27)
 - <http://www.youtube.com/watch?v=aU2-ktJma4g>